

# 2025（令和7）年さけます来遊状況（第7報：2/28現在）

## 4 さけ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 全国の年齢別来遊数では、3年魚（2022年級）、4年魚（2021年級）、5年魚（2020年級）が前年および平年を下回り、3年魚と4年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない
- 北海道太平洋側では3年魚が平年の22%、4年魚が平年の11%、北海道日本海側では3年魚が平年の25%、4年魚が平年の29%で、1994（平成6）年以降で最も少ない
- 本州太平洋側、本州日本海側とも3年魚、4年魚および5年魚が1994（平成6）以降で最も少ない
- さけの平均重量は北海道で2.91kg、本州で2.78kgとなり、ともに1994年以降2番目に小さい

\*1：平年とは、1994（平成6） - 2024（令和6）年の平均値

### ・さけの年齢組成 （全国）

全国の河川に回帰したさけの年齢組成の途中経過をもとに、2月28日現在における年齢別来遊数を推定したところ、年齢組成では、4年魚（2021年級）が全体の65%を占めて最も多く、次いで5年魚（2020年級）が25%を占めました。前年同期との比較では、3年魚は51%、4年魚は34%、5年魚は55%と前年を下回りました（図1）。平年同期との比較では、3年魚は17%、4年魚は16%、5年魚は10%といずれも下回っており、3年魚と4年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない値となりました。

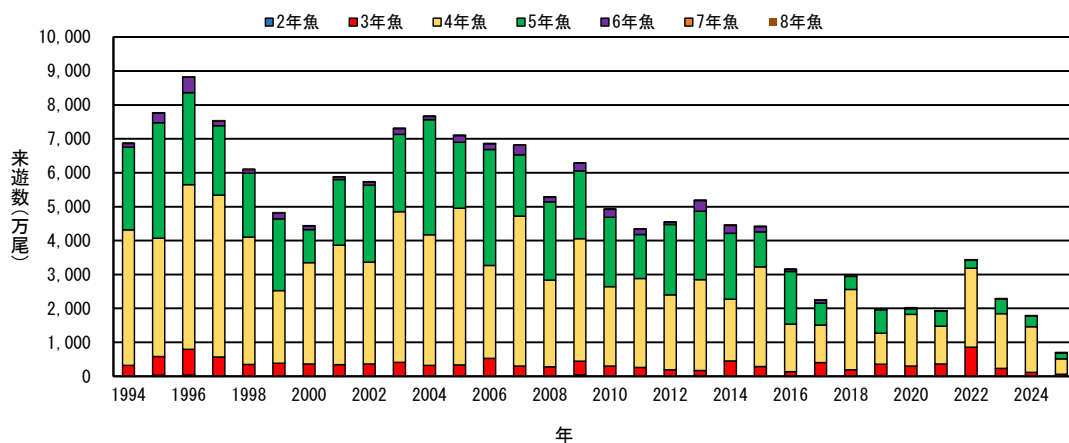


図1. 2月28日現在のさけ年齢別来遊数（全国）.

(北海道太平洋)

北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚（2021年級）が全体の70%を占めて最も多く、次いで5年魚（2020年級）が16%、3年魚（2022年級）が13%となりました。3年魚の来遊数は前年同期の57%、平年同期の22%、4年魚は前年同期の38%、平年同期の11%、5年魚は前年同期の47%、平年同期の4%となっており、いずれも1994（平成6）年以降で最も少ない値となりました（図2）。

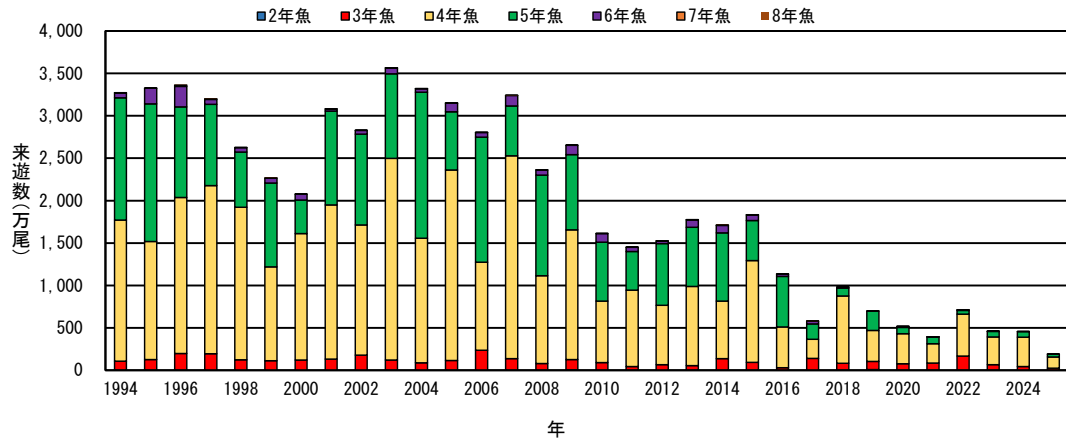


図2. 2月28日現在のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2021年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2020年級の平均の14%の水準となりました。また、今年の5年魚である2020年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2019年級の平均の23%の水準となりました（図3）。

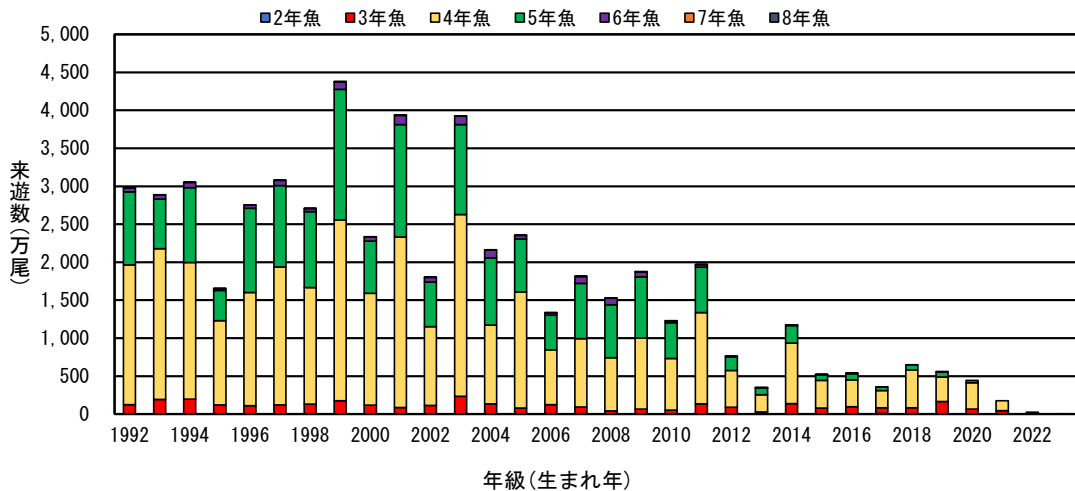


図3. 2月28日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道太平洋）.

(北海道日本海)

北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では、4年魚（2021年級）が全体の63%を占めて最も多く、次いで5年魚（2020年級）が29%、3年魚（2022年級）が7%となりました。3年魚の来遊数は前年同期の50%、平年同期の25%、4年魚は前年同期の32%、平年同期の29%、5年魚は前年同期の57%、平年同期の22%となっており、3年魚および4年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない値となりました（図4）。

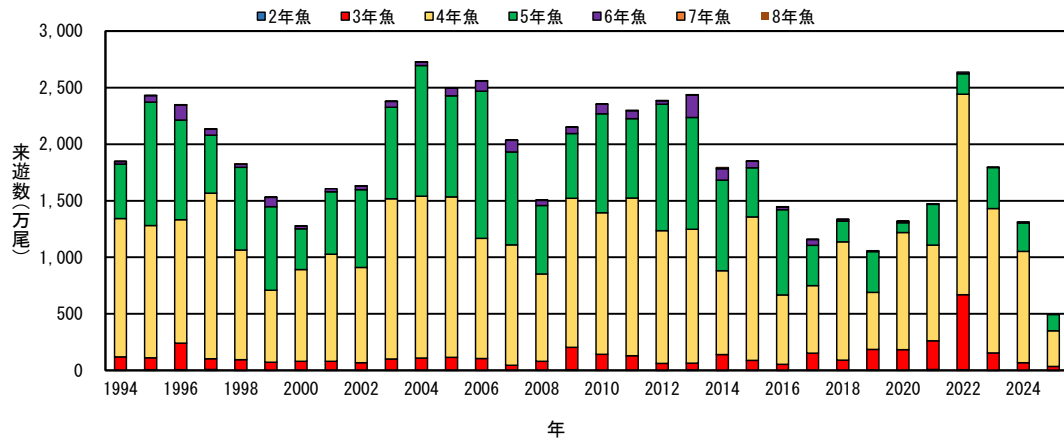


図4. 2月28日現在のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2021年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2020年級の平均の32%の水準となりました。また、今年の5年魚である2020年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2019年級の平均の70%の水準となりました（図5）。

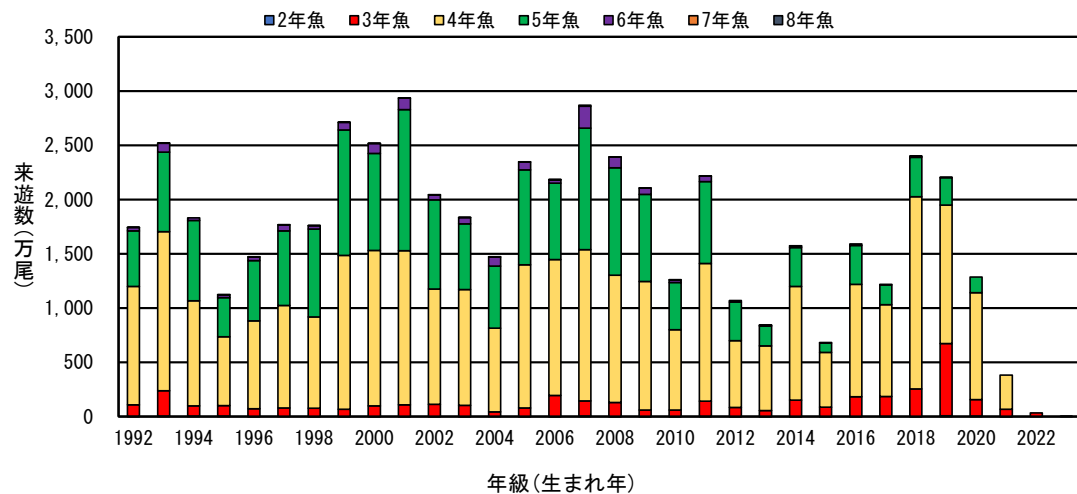


図5. 2月28日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道日本海）.

(本州太平洋)

本州太平洋側では、4年魚(2021年級)が全体の78%を占めて最も多く、次いで3年魚(2022年級)が12%、5年魚(2020年級)が9%となりました。3年魚の来遊数は前年同期の23%、平年同期の0.4%、4年魚は前年同期の41%、平年同期の0.4%、5年魚は前年同期の39%、平年同期の0.1%となっており、いずれも1994(平成6)年以降で最も少ない値となりました(図6aおよび図6b)。

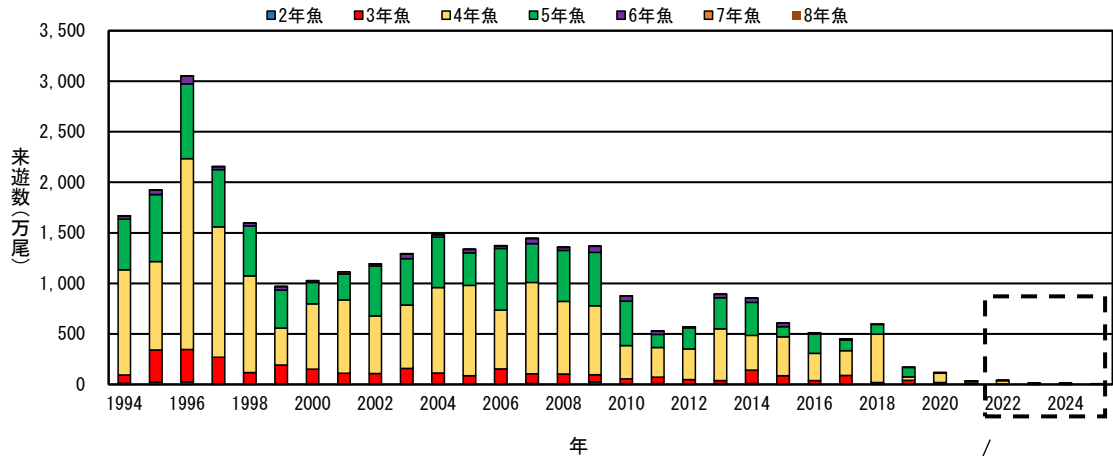


図 6a. 2月28日現在のサケ年齢別来遊数(本州太平洋).

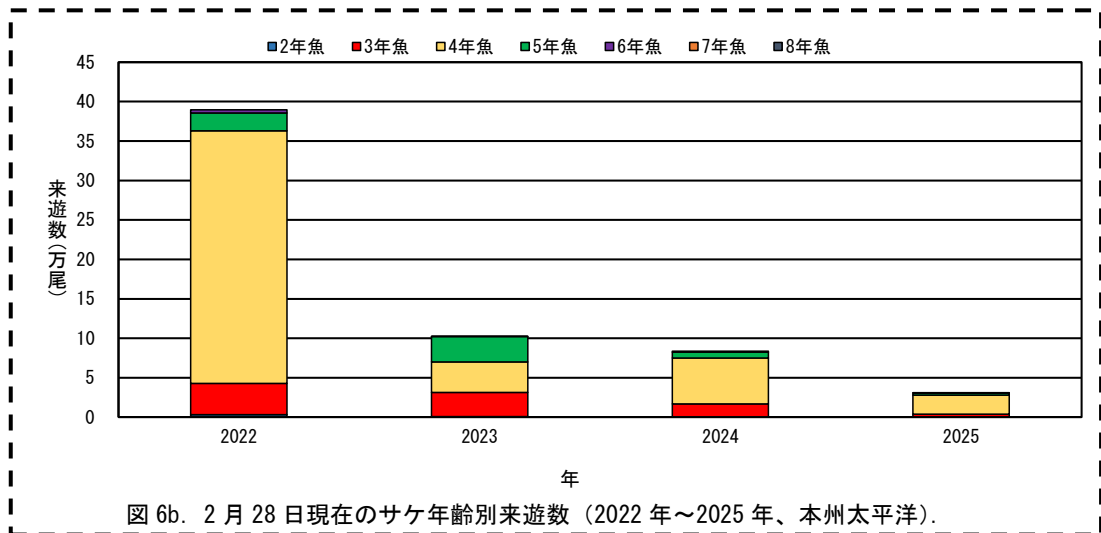


図 6b. 2月28日現在のサケ年齢別来遊数(2022年~2025年、本州太平洋).

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2021年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2020年級の平均の0.7%の水準となりました。また、今年の5年魚である2020年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2019年級の平均の1%の水準となりました（図7aおよび図7b）。

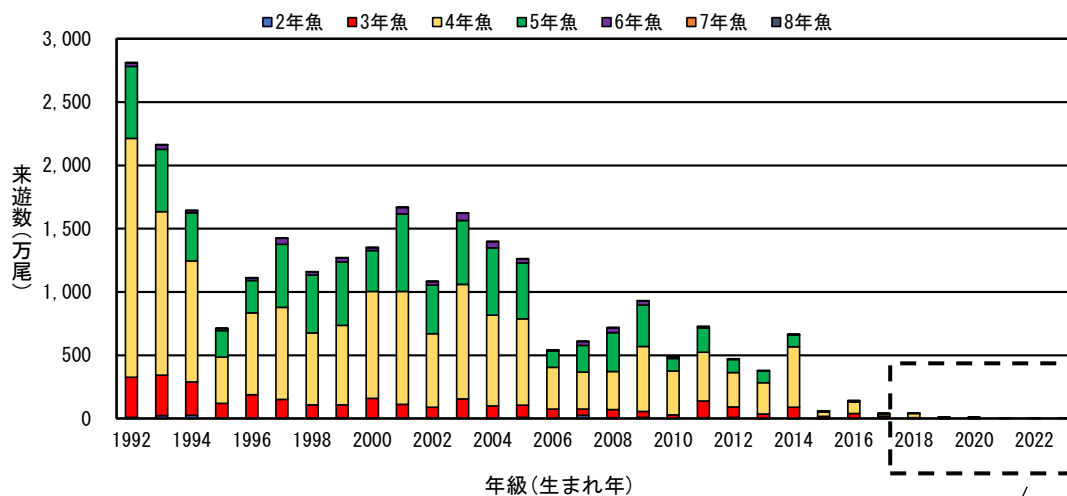


図7a. 2月28日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州太平洋）.

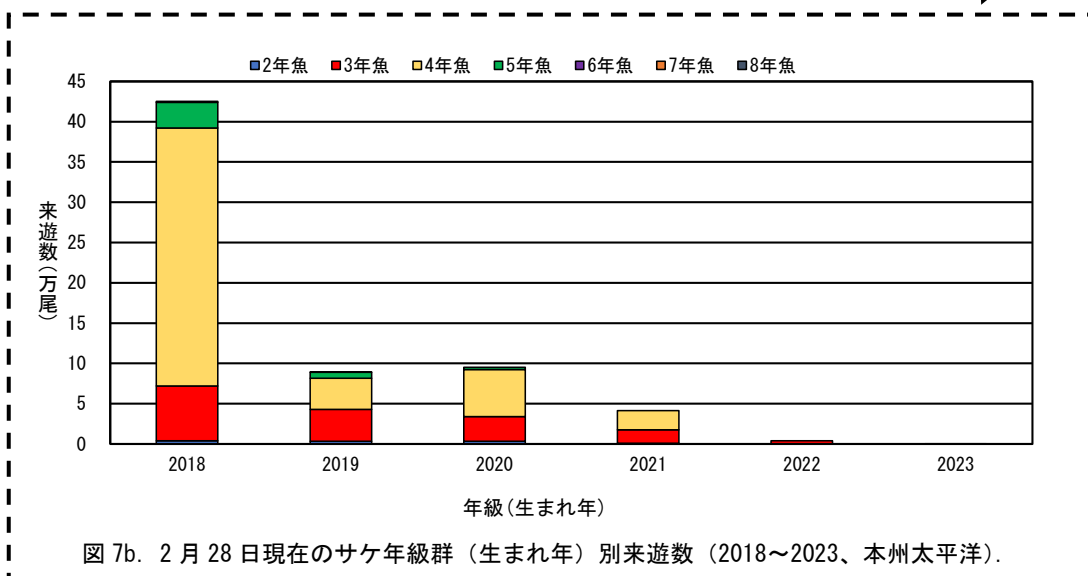


図7b. 2月28日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（2018～2023、本州太平洋）.

(本州日本海)

本州日本海側では、4年魚（2021年級）が全体の77%を占めて最も多く、次いで5年魚（2020年級）と3年魚（2022年級）が11%となりました。3年魚の来遊数は前年同期の19%、平年同期の3%、4年魚は前年同期の35%、平年同期の7%、5年魚は前年同期の53%、平年同期の3%となっており、いずれも1994（平成6）年以降で最も少ない値となりました（図8）。

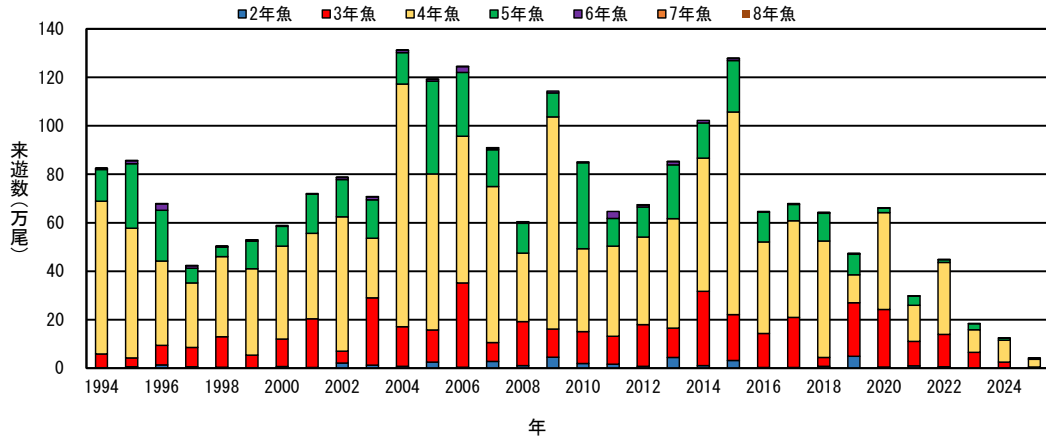


図8. 2月28日現在のサケ年齢別来遊数（本州日本海）。

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2021年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2020年級の平均の10%の水準となりました。また、今年の5年魚である2020年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2019年級の平均の23%の水準となりました（図9）。

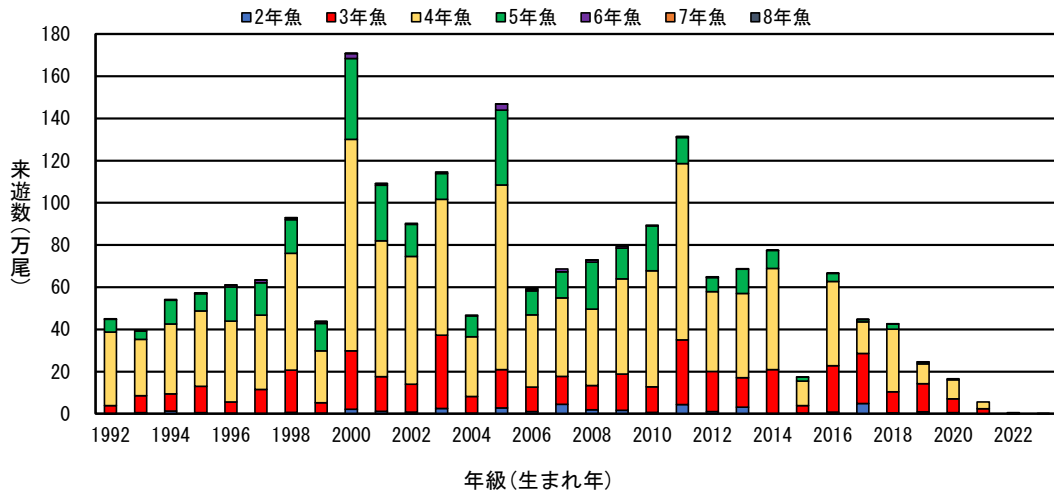


図9. 2月28日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州日本海）。

・サケの体サイズ  
(北海道)

北海道における2月28日現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は2.91kgであり、前年同期の平均重量2.96kgを下回り、1994(平成6)年以降で2番目に小さい値となりました(図10)。

また、北海道の主要河川に2月28日現在までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は63.8cmであり、前年同期の平均尾叉長64.7cmよりも小さく、1994(平成6)年以降で3番目に小さい値となりました(図11)。

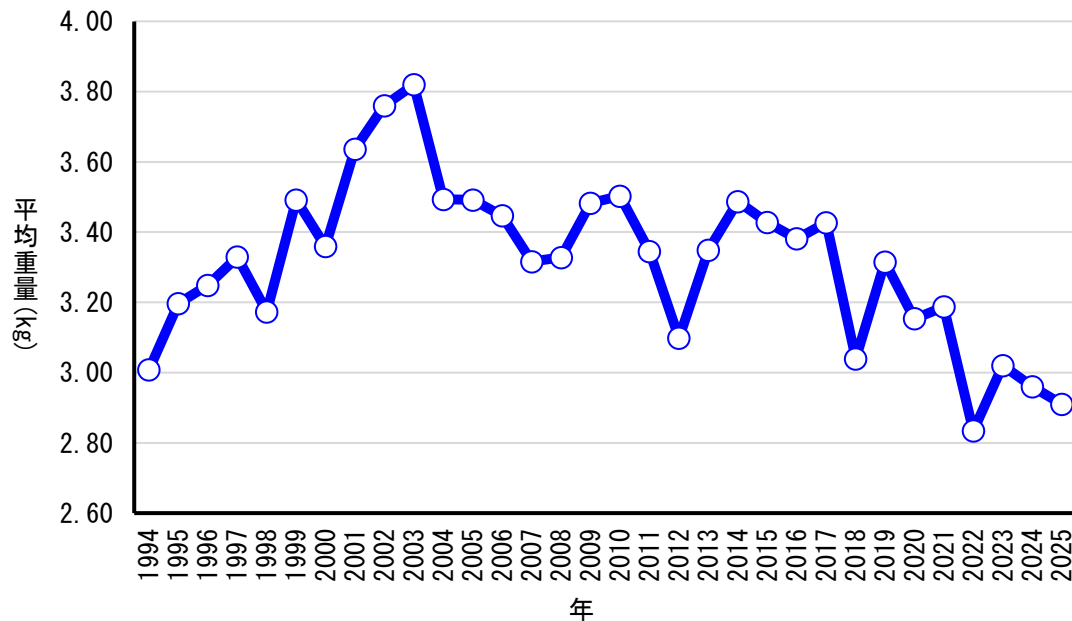


図10. 2月28日現在のサケ平均重量(北海道).

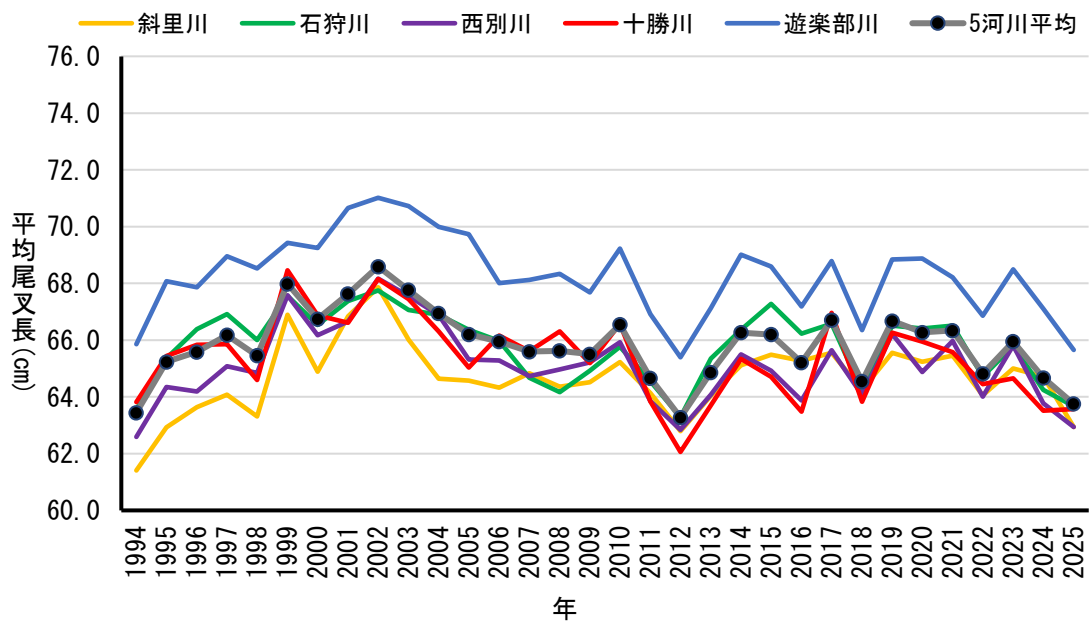


図11. 2月28日現在の北海道主要河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長.

(本州)

本州における2月28日現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は2.78kgであり、前年同期の平均重量2.85kgを下回り、1994(平成6)年以降で2番目に小さい値となりました(図12)。

また、本州太平洋側の安家川、本州日本海側の月光川(牛渡川)に2月28日現在までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長はそれぞれ64.7cm、68.0cmであり、前年同期の平均尾叉長66.3cm、69.2cmと比較して両河川とも小さい値となりました(図13)。

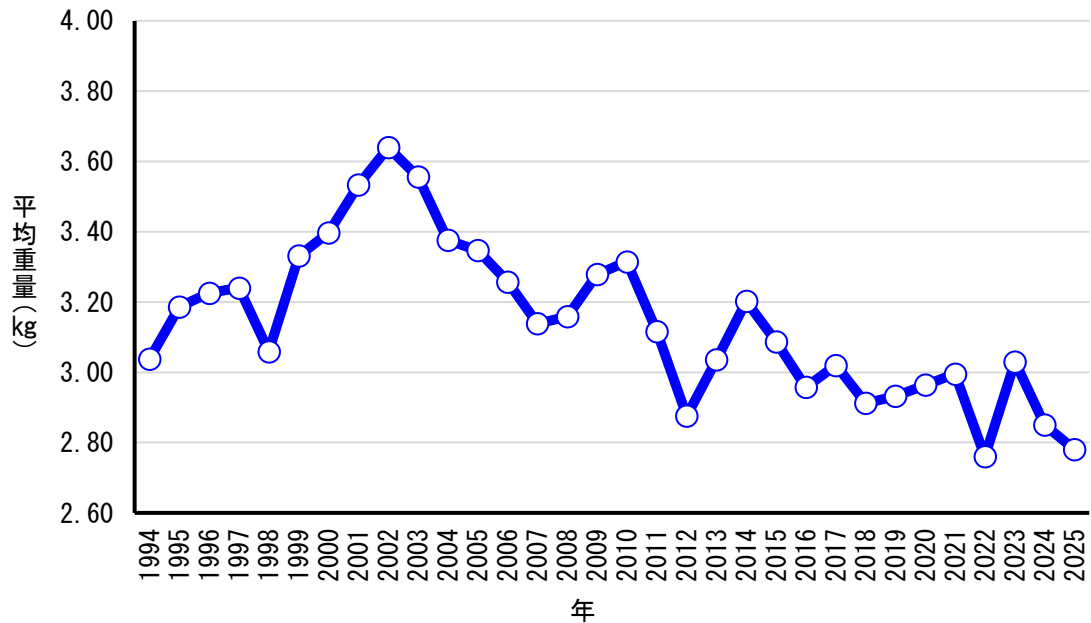


図12. 2月28日現在のサケ平均重量(本州)。

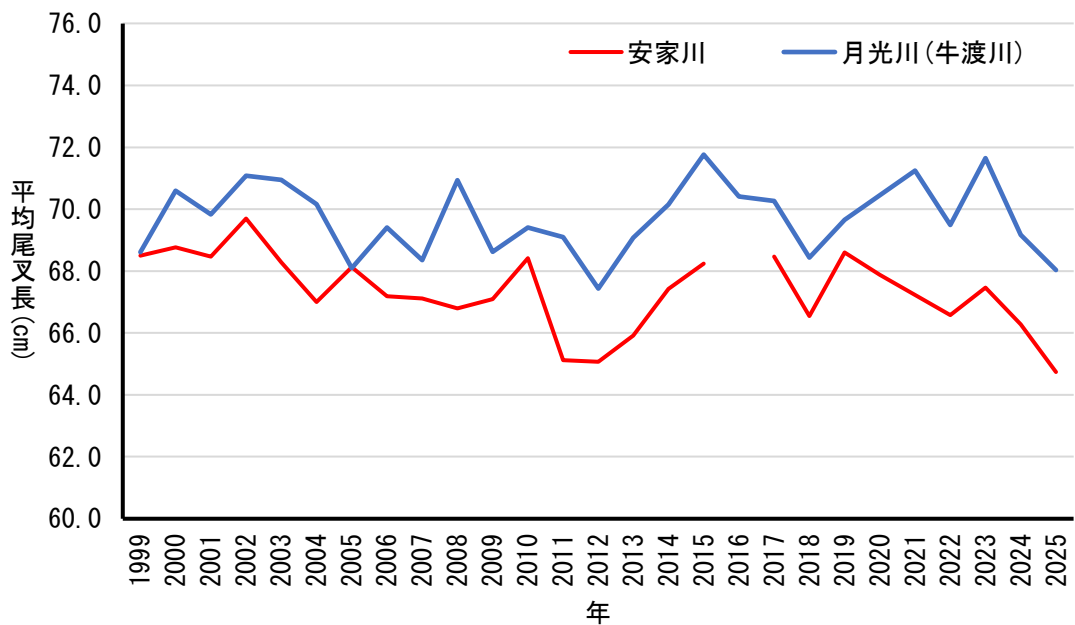


図13. 2月28日現在の本州2河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長。

※今年度から、本州太平洋側の掲載河川を津軽石川から安家川に変更しています(2016年のみデータなし)